

本指導案は、「2019年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業 美術科学習指導案

1. 題材名 **「 マグリットおじさんからの挑戦状！ 」**
～ルネ・マグリット作《王様の美術館》の世界を鑑賞しよう～
2. 題材作品 ルネ・マグリット 《王様の美術館》
1966年 油彩、カンヴァス 130.0×89.0 cm 横浜美術館蔵
3. 実施学年 第1学年
4. 学習指導要領との関連 B鑑賞 (1)

5. 本題材について

マグリットの作品の多くには、写実的でありながら、日常にありふれたイメージを組み合わせ、実際にはあり得ないような場面を作り出して、見る人の意表をつく手法（デペイズマン）が用いられている。横浜美術館蔵《王様の美術館》も見る人に様々な想像を掻き立てる超現実的な世界を表現することに成功している。本題材では、生徒と生徒、教員と生徒との対話を重視した鑑賞の活動を行うことで、生徒の見方・考え方を広げることがねらいとしている。

6. 題材目標

造形的な視点を理解し、美術作品のよさや美しさを感じる活動を通して、ものの見方や感じ方を広げ、日常生活の中で、豊かな感性で様々な事象を感じ取る心を育てる。

7. 題材の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩が感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しくシュルレアリスムによる絵画作品などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

8. 準備

黒板掲示用：《王様の美術館》の実物大のカラーコピー
各グループ用：《王様の美術館》のA3カラーコピー
ワークシート（人数分）

9. 授業展開（1時間）

	活動内容	指導上の留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ マグリット作《王様の美術館》と出会う。 ・ クラス全体で鑑賞し、考えたことを発言し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実寸に拡大した作品のコピーは全体で見せ、A3 の作品カラーコピーを各グループに配布する。題名は伝えない。 ・ 画面内にあるものを「これは何？」と聞きながら、クラス全体で確認していく。 ・ 生徒と対話する中で、【質問集】（別紙参照）にある質問についても、必要に応じてクラス全体に投げかけて聞いても良い。
展開 I 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者が【質問集】から8問ほど選択した質問について、設問Ⅰ「作品をじっくり見て、グループで①～⑧の質問について話し合ってみましょう。」に取り組む。 【ワークシートⅠ】①～⑧を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞プリントを全員に配布する。 ・ 「挑戦状」として質問を封筒の中に入れて各班に配る演出をしても良い。 ・ 画面のどこから根拠を得たのかを答えられるようにするよう伝える。
展開 I 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合ったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表時には「絵のどこからそう感じたの？」と積極的に聞くよう心がける。 ・ 生徒の発表に対して、さらに深掘りするような返答を、指導者が対話的に行えると良い。
展開 II 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設問Ⅱ「自分だったら、この絵にどのようなタイトルを付けますか。また、そのタイトルにした理由は何ですか。」について考え、【ワークシートⅡ】に記入する。 ・ 発表し合う。 	<p>設問Ⅱに取り組む前に題名《王様の美術館》を伝えても良い。題名はあくまでも作者のつけたものであり、鑑賞する上での答えではなく、様々な考えが生まれることが正しいということ、さらにマグリットにとっては、題名自体もデパイズマンを意図したものであったことを伝える。</p>
まとめ 10分	<p>設問Ⅲ「授業のねらいを再度確認し、授業の感想を書きましょう。」を【ワークシートⅢ】に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想を記入する際、授業のねらいを再度確認し、ねらいを達成できたかを再度確認させる。 ・ 授業の終わりにマグリットの言葉を紹介しても良い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>書かれた詩は、眼に見えないものであり、描かれた詩は、その姿を見ることができる。書く詩人は、身近な言葉によって考え、描く詩人は、眼に見えるものの身近な形象によって考える。書かれたものとは、思考の眼に見えない描写であり、絵画とは、その眼に見える描写である。</p> <p>私が描くイメージは、眼に見えるものの形象の他にも表していない。だが、それは、ある配列にしたがって表されるものであり、その配列は、私たちがごく自然に未知のものに対して抱く興味にこたえるものなのだ。</p> <p>私は、自分の描いたイメージを、題名によって、できるかぎり巧みに名づけるのだ。</p> <p>（『ルネ・マグリット展』図録 P.50（朝日新聞社、1994年）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ この作品は横浜美術館のコレクション作品で、美術館で鑑賞できる作品であることを伝える。

10. 参考文献

「ルネ・マグリット展」図録 1994年、朝日新聞社編

11. 【質問集】について

先生方が授業展開をイメージしやすいよう、作品から引き出せる様々な問いをできるだけ多く【質問集】にまとめました。「導入時」の問いは、まず画面に何が描かれているかを把握するためのものです。ここで作品の大枠をクラス全体で把握します。「展開時」の内容は、絵の細部について考えたり、そこから導かれるさらなる問いや解釈を深めたりするような質問です。ワークシートでは8問を想定していますが、先生方によって質問数も調整してご活用ください。

12. 指導案作成者からのメッセージ

「横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業」として、「誰もが使いやすい授業づくり」を心がけました。横浜美術館を代表する本作、ルネ・マグリット作《王様の美術館》を用いた、生徒と生徒、教員と生徒との対話を重視した鑑賞の授業を作ることができれば、多くの先生に活用していただける、汎用性の高い授業になると考えました。24の質問からなる【質問集】を作成し、先生方そして生徒にフィットする質問を、授業者ごとに選んでいただけるような工夫を盛り込みました。授業にご活用いただくと同時に、先生方のアイデアで、より良い授業に成長させていただけたら幸いです。

(指導案作成：横浜市立中学校教諭 菅野遥希、黒田唯、吉綾子)

「マグリットおじさんからの挑戦状！」
～ルネ・マグリット《王様の美術館》の世界を鑑賞しよう～

【質問集】

導入時

- ・ 絵の中には何があるかな？
- ・ 絵の中にある、これは何かな？
- ・ この絵から見つけたものや気づいたことをあげてみよう。

展開時

- ・ この人がいるところはどこだろう？
 - ・ この人は何を見ているのだろうか？
 - ・ この人は何を考えているのだろうか？
 - ・ この人は何と言っているのだろうか？
 - ・ この人はなぜ目と鼻と口だけなのか？
 - ・ この人はどこへ行くのだろうか？
 - ・ この人は何者なのだろうか？
 - ・ この人の背はどれくらいだろうか？
 - ・ この人はどんな服を着ているだろうか？
 - ・ この人はどんな靴を履いているだろうか？
 - ・ なんでこの人は帽子をかぶっているのだろうか？
-
- ・ この人の中の風景には何があるだろう？
 - ・ この人の中の風景は朝昼夕いつだろう？
 - ・ 風景のなかにある建物はなんだろう？
 - ・ この人の中の風景は変化していくだろうか？
 - ・ この人が動くと中の風景も動くのだろうか？
 - ・ この建物の中には人はいるのだろうか？ いるとしたら、誰だろうか
 - ・ この人と建物の距離は、どれくらいなのだろうか？
-
- ・ この人の後ろにある丸い物は何だろう？
 - ・ 塀の向こうが真っ暗なのは、なぜだろう？（何を表している？）
 - ・ この人が立っている場所、塀の向こう、この人の中の情景は、同じ時間や場所なのだろうか？
同じ→どこからそう思う？ 違う→それぞれの時間軸や場所は？

■作品・作家について

ルネ・マグリット [René MAGRITTE、1898-1967]

《王様の美術館》

1966年

油彩、カンヴァス

130.0×89.0cm

横浜美術館蔵

ルネ・マグリットはシュルレアリスムの代表的な作家のひとりです。シュルレアリスムとは、夢や無意識あるいは非合理的な世界に着目することで、それまでの芸術とは異なる新しい価値を作り出そうとした、20世紀の前衛芸術の中で大きな広がりを見せた運動です。

マグリットは、明暗や奥行きの描写は写実的でありながら、互いに無関係なオブジェを画面上に並べることで、現実にはあり得ないような世界を描きだしました。本作でも、通常は遠景として描かれるはずの風景が一番手前に、しかも人型のシルエットのなかに描かれています。さらにその頭部にあたる部分には目・鼻・口が浮かんでいるなど、作家の仕掛けた不可思議をいくつも見つけることができます。また、この人型のシルエットはマグリットの作品によく現れる、フロックコート姿で山高帽を被った紳士のものだと考えられます。作家自身もダークスーツに山高帽を愛用していたことから、その匿名の紳士たちには、マグリット本人の姿が重ねあわされているのかもしれない。

さらにマグリットは、画面上のオブジェ同士の関係性だけでなく、タイトルについても描かれたイメージと明確な関係性を見つけないような組み合わせを好みました。他人に題名を付けてもらうことがしばしばあり、本作の《王様の美術館》というタイトルも、友人のレイ・スキュトネールが名付けたと伝えられます。

今回の授業案では、生徒と生徒、生徒と教員同士の対話を通じて、見方や考え方を広げることを目指しています。その前提として、この作品に何が描かれているか、そこからどんな問いが引き出されるかを考えていただく教員向けの図解資料を作成しました（次頁）。【質問集】とあわせてご活用ください。

(横浜美術館 教育普及グループ)

何が描かれている？ 《王様の美術館》

背景は真黒

黒から受ける印象は？
→ 闇、夜、先が見えない、無、空虚など

目・鼻・口のみ...

目 まっすぐ前を見ているが、何を見ている？
白目の周りには肌色も見える。

鼻 右側に濃い影。左から光が当たっている？

口 閉じられた赤い唇。上唇と下唇の右側に影。
何も言いたくない？
言いたいことがあるのに言えない？

→ 総じて感情が読み取りにくい。
背景の黒、風景の青、塀の灰色など暗めで
寒色系の色彩が多い中で、この部分だけ
対照的な色遣い。

塀と球体

球体 灰色。中央に横筋。
右下に影があり立体的。
マグリット作品によく登場する鈴のモチーフ？
鈴だとしたら、どんな音がしそう？
あるいは一体これは何でしょう？

塀 灰色。表面に不規則にスジが入っていて
石のような質感。奥行きがあり立体的。



人のシルエットのような形

ツノ？ 帽子のツバのようにも見える。
耳のようだが、やけに長い。

マグリットの作品によく登場する、
山高帽を被ってフロックコートを着た紳士の
シルエット？

空間がぼっかり空いていて、
目・鼻・口が浮いているようにも見える。
立て看板のようでもある。
あるいは人のシルエットとは言い切れない、
得体のしれない生き物かも・・・。

森の風景

- ・灰暗い空、雲のような霞が広がっている。
夕闇？それとも夜明け前？ 天候は？ 季節は？
- ・幾重にも重なる山の稜線。繊細なグラデーション。
手前は背景の黒に近い濃青。
- ・森の中に建物。赤い屋根、白い壁。たくさんの窓。
お城？お屋敷？ 何のためにある建物？
誰がいる？ いるとしたらどんな人？ 何人くらい？
山の中に建っているので行くのが大変そう。遠い感じ。
- ・手前の森の暗さ。枝や葉が細やかに描かれている。

→ 全体的にぼんやりと描かれ、塀や球体、目・鼻・口のはっきりとした立体的な描写と対照的。
人型のシルエットの中に描かれているので、
その人の夢、あるいは心象世界のよう。

背景として描かれるべき風景が、
絵の要素のなかで一番手前に来ている
→ 現実にはあり得ない、不可思議な空間構成